

ふるさとの植物を守ろう 植物園と生物多様性



目次

ネイチャーポジティブをめざした植物園の取り組み	2
植物多様性保全委員会 委員長 遊川 知久	
植物多様性保全拠点園一覧	4
2022 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動報告	6
2023 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動計画	14
資料 植物個体管理データベース 概要説明書	20
資料 日本植物園協会植物情報システム運用規約	21
資料 植物個体管理データベース利用申請書	
園管理者用	22
園閲覧者用	23
資料 保有状況調査について	24

ネイチャーポジティブをめざした植物園の取り組み

植物多様性保全委員会

委員長 遊川 知久

1. 保全ネットワークで達成！「植物多様性保全 2020 年目標」

生物多様性保全を担うさまざまな施設の中で、植物園は3つの「すごい」特色を持っています。

- 1 有用性の有無にとらわれることなく多様な植物を生きたまま保全できる
- 2 保全に必須の技術である栽培・繁殖の専門家を擁する
- 3 社会に開かれた調査・研究の場である

これらのメリットを活かせば、植物園だけで保全の課題を解決できそうな気がしてきます。しかしひとつの種を守るには、多くの人の力とさまざまな専門的な知見・技術が結集しないと達成できません。さらに日本の植物園はいずれも規模が小さく、ひとつの園の職員だけではじゅうぶんに保全に取り組みにくい現実があります。いっぽう、日本には全国各地に植物園があるのが大きな特長です。地域の植物園がその地域の気候を活かして、郷土の生物多様性を大切に思う人たちと協力して保全を進める仕組みを作りませんか？こうした連携が全国でできれば、海外の大きな植物園が国全体の保全を担うのと同じレベルのことができるはず！ そんな発想で、日本植物園協会は「植物多様性保全拠点園ネットワーク」^{注1}を2006年にスタートさせました。現在、日本全国の32の植物園が参加しています。

この活動を進めるために作ったのが「植物多様性保全 2020 年目標」^{注1}です。この目標は、名古屋で2010年に開かれた第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）で採択された「世界植物保全戦略 2011-2020」と環境省の「生物多様性国家戦略 2012-2020」をよりどころに、日本の植物園のめざす保全を明確にしたものです。概要は以下の通りです。

（注1：詳しくは『日本の植物園』pp.133-138 八坂書房を参照）

植物多様性保全 2020 年目標

< ミッション >

わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と、有用植物資源の系統保存の中核として貢献する

< 主要目標 >

- 1 2020年までに日本産絶滅危惧植物種の75%（1,268種類）の生息域外保全を実施する
- 2 2020年までに日本産絶滅危惧植物種を網羅する効果的な保全手法を提示する
- 3 コレクション構築、保存、継承の方法を標準化し、ナショナル・コレクションを確立する
- 4 すべての植物園で生物多様性保全の理解に資する学習支援事業を実施する

主要目標1については、全国各地域の拠点園が地元の専門家に協力いただく取り組みを中心に、日本産絶滅危惧植物種の77%（1,304種類）の生息域外保全を達成することができました。しかし、その後、絶滅危惧種数が増加したことにより、現在では73%となっており、仕切り直しが必要です。ここで忘れてはならないのは、各園の協力のもと5年に一度おこなっている、全国すべての植物園の絶滅危惧植物保有状況調査です。植物園で栽培中の絶滅危惧種の情報を集約し最新の保全状況を国レベルで把握できている国は多くありません。

いっぽう植物多様性保全委員会が窓口となり、野生復帰モデル事業、種子保存事業、個体情報と特性情報のデータベース化事業などを継続して実施し、主要目標2もめざすところを実現できました。主要目標3では長年の悲願だった「ナショナルコレクション認定制度」が2017年にスタートし、これまで17コレ

クションが認定されています。主要目標4では2017年に教育普及委員会が設置され、全国の植物園が協力して生物多様性をたのしく伝える取り組みがどんどん進んでいます。2009年に刊行を開始した「植物園と市民で進める植物多様性保全ニュース」も大きな成果です。

こうした活動が評価されて、2017年、植物多様性保全委員会が自然環境功労者環境大臣表彰を受賞したことは、会員園の皆様、そして協力いただいた団体や個人、行政機関、企業などのお力添えのおかげと改めて感謝申し上げます。また環境省や地球環境基金、植物園自然保護国際機構（BGCI）などからの財政支援により、充実した活動を進めることができました。

2. 保全ネットワークでネイチャーポジティブをめざそう

コロナ禍によって第15回生物多様性条約締約国会議の開催が長く延期されたことにより、生物多様性保全の2030年に向けた地球規模の目標「昆明・モンテリオール生物多様性枠組（ポスト2020枠組）」の制定が大幅に遅れました。そしてこれを国内で実現するために環境省がまとめた「生物多様性国家戦略2023-2030」がこのほど確定しました。これらの目標のキーワードは“ネイチャーポジティブ”です。まだ耳なじみのうすい言葉ですが、「生物多様性や自然の損失を最小限にするだけでは不十分。これまでよりもよくしよう」といった意味です。

世界の植物園の共通の目標である「ポスト2020世界植物保全戦略」が決まるのは、今秋になる見込みです。日本植物園協会の新しい保全目標は国際的な目標と整合するものとする必要があると考え、「ポスト2020世界植物保全戦略」の制定に合わせて提案する予定です。今しばらくお待ちいただければ幸いです。

拠点園ネットワークのような交流がキモとなる取り組みにとってコロナ禍の影響は大きく、2020年以降の対面の集会はキャンセルとなり、コミュニケーションが停滞しました。制約のなくなった今年度は、これまでの取り組みを振り返り、あらたな気持ちで目標や活動を再構築する絶好のタイミングでしょう。そこで植物多様性保全委員会のもとに植物多様性保全ネットワーク分科会を設置し、どのように全国の植物園が連携すれば2030年のネイチャーポジティブを実現できるか検討してまいります。また関東、西日本、中部の拠点園会議の再開をめざします。さらに今年度は、全国の拠点園の保全ネットワーク担当者としてこれからの活動を打ち合わせる集会を開催します。

この年次報告では、2022年に全国の拠点園がおこなったネイチャーポジティブ実現に向けた活動を紹介しています。拠点園の皆様には、取りまとめにご協力をいただきありがとうございました。全国の植物園で、素晴らしい取り組みを数多く進めておられることがよく分かります。こんな活動をされていたんだと初めて知ることも多く、情報のギャップを埋めるためにこうした資料が大切なことに改めて気づかされます。また読み込んでいただくと、自園でのこれからの活動のヒントになることもいろいろ紹介されていると思います。一方、冒頭で申した「日本の植物園が総体として海外の大植物園に肩を並べる活動をおこなう」という拠点園ネットワークの目標に近づいていることがお分かりいただけたと思います。

58回大会では「植物園と市民で育む生物多様性活動 報告会」を企画しました。今回の集まりがきっかけとなり、これからの活動についてのご提案、意見交換がおこなわれること、そして植物園外のセクターとさまざまな連携が始まることと楽しみにしています。お尋ねになりたいことなどありましたら、お気軽にお声かけください。

今年度もどうぞよろしく願いいたします。

植物多様性保全拠点園一覧

(令和5年3月)

地域野生植物保全拠点園	
北海道	■北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 ■旭川市北邦野草園
東北	■東北大学植物園
中部	■新潟県立植物園 ■富山県中央植物園 ■白馬五竜高山植物園 ■名古屋市東山植物園
関東	■東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園 ■国立科学博物館筑波実験植物園 ■東京大学大学院理学系研究科附属植物園 ■環境省新宿御苑 ■東京都神代植物公園(植物多様性センター)
近畿	■京都府立植物園 ■大阪公立大学附属植物園 ■大阪府立花の文化園 ■大阪市立長居植物園 ■六甲高山植物園 ■神戸市立森林植物園 ■姫路市立手柄山温室植物園
中国	■広島市植物公園
四国	■高知県立牧野植物園
九州	■熊本大学薬学部薬用植物園 ■福岡市植物園 ■西海国立公園九十九島動植物園
沖縄	■一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター

特定植物保全拠点園	
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園【高山植物】	
東北大学植物園【ヤナギ科】	
新潟県立植物園【ツツジ属、水生植物】	
富山県中央植物園【高山植物、サクラ属、キク属とその近縁属、水生植物】	
安城産業文化公園デンパーク【サルビア属・ガマズミ属・ヒラギナンテン属、ギボウシ属】	
国営武蔵丘陵森林公園都市緑化植物園【ムラサキ】	
国立科学博物館筑波実験植物園【シダ植物、ラン科、ソテツ目、水生植物、高山植物、センニンソウ属、テンナンショウ属、カンアオイ属、チャルメルソウ属】	

特定植物保全拠点園
環境省新宿御苑【ラン科植物、ハナシノブ】
東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園【温帯性テンナンショウ属】
北里大学薬学部附属薬用植物園【薬用植物】
草津市立水生植物公園みずの森【水生植物】
京都府立植物園【ラン科、カンアオイ属、ホトトギス属】
武田薬品工業(株)京都薬用植物園【薬用植物】
大阪公立大学附属植物園【水生植物】
咲くやこの花館【マダガスカル産植物、中国高山産植物、フヨウ属、サクラソウ属】
大阪府立花の文化園【ラン科、カンアオイ属】
兵庫県立フラワーセンター【イワタバコ科、食虫植物】
広島市植物公園【ラン科】
高知県立牧野植物園【ラン科、ツツジ属、キク科、蛇紋岩植物、石灰岩植物】
一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター【ラン科、南西諸島の絶滅危惧植物全般】

種子保存拠点園
環境省新宿御苑 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター

地域野生植物保全拠点園

- ・自園で収集、保全、展示、教育活動等をおこなうとともに、当該地域の他の植物園や行政当局、市民団体などと連携を進める役割を担う拠点園

特定植物保全拠点園

- ・地域を限定せず、特定の分類群(たとえばラン科、シダ植物、高山植物といったカテゴリーで)などを収集・保全をおこなう拠点園

種子保存拠点園

- ・種子の長期保存と種子を使った保全をおこなう拠点園

全国の植物多様性保全拠点園の取り組み

2022年度 植物多様性保全拠点園事業・活動報告

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

<調査・研究>

- ・植物園の希少種分譲システムが域外保全コレクションの遺伝的多様性に与える影響の検証
- ・北海道指定希少野生植物エンピセンノウの自生地植え戻し試験
- ・種の保存法指定種シリベシナズナの遺伝的多様性に配慮した保全に関する研究

<教育・普及啓発>

- ・公開教育プログラム「 - 北大の牧場・植物園で SDGs を考える - 北海道日高地方の馬生産と絶滅危惧植物の保全」
- ・付属温室における北海道絶滅危惧植物の生株とパネルの展示

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・キリギシソウの生息域内・域外保全における「岨山自然保護協会」との協力

旭川市北邦野草園

<調査・研究>

- ・北海道上川管内に自生する植物の調査研究、発表
- ・北海道・蛇紋岩地帯に於ける植物の調査研究
- ・環境省モニタリングサイト 1000 里地調査の継続
- ・植物標本の作成・整理
- ・研究機関との共同調査、発表

<教育・普及啓発>

- ・自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会の開催（6回）
- ・調査研究報告書 No.11 の発行（3月末予定）
- ・市民向けに植物に関わる講演会を実施（9月）



シリベシナズナ保全調査(北大)

東北大学植物園

<教育・普及啓発>

- ・環境省が実施するチョウセンキバナアツモリソウ保護増殖事業計画への協力（株の栽培、審議会参加）

国立科学博物館筑波実験植物園

<調査・研究>

- ・スナヅル、サジモダカ属、クモキリソウ属など種の実体の把握と分類学的な再検討、遺伝的構造解析
- ・オニノヤガラ属、カンアオイ属など絶滅危惧植物の生活史と繁殖特性解明
- ・キク科、ベンケイソウ科、マメ科など高山植物のフェノール化合物の特性解明
- ・クモキリソウ属、シダ植物など保全を目的とした無菌播種、菌共生播種、孢子培養、自生地播種の技術確立

- ・野生絶滅種コシガヤホシクサの交配様式が適応度に及ぼす影響の解明
- ・ハエ類によるラン科絶滅危惧種の果実食害の実態解明
- ・クマヤブソテツ、ムニンミドリシダ、ナガバエビモなど生息域外での生活史循環の確立

<教育・普及啓発>

- ・サクラソウ品種展、絶滅危惧生物展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開を実施
- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催
- ・「なぜランは希少になったか?」、「植物園における生育域外保全の取り組み」などの講座を開催
- ・オンライン講演会「バイオテクノロジーでランを未来へ」を開催

- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催
- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・NPO 法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体とのコシガヤホシクサの保全に関する合同検討会議を開催
- ・ランネットワーク、ラン懇話会、IUCN などへ活動支援

環境省新宿御苑

- <教育・普及啓発>
- ・日本絶滅危惧種展（5/31～6/21）
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
- ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

東京大学大学院理学系研究科附属植物園小石川本園

- <調査・研究>
- ・小笠原希少野生植物保護増殖事業を受託し、野生株の系統保存、ならびに自生地の野生株・植栽株の継続調査等を行い、生育状況の把握等を実施した（環境省受託業務）

- <教育・普及啓発>
- ・植物園協会主催「種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム：小笠原の絶滅危惧種に注目して」で「小笠原での種子・孢子を使った保全の取り組み」として講演
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・小笠原の受託業務において、母島該当種の域内保全は、現地法人と協力して実施している。また、父島内においての域外保全を実施するべく、環境省と現地法人と自生地調査を実施した

神代植物公園

- <調査・研究>
- ・野生のラン科植物の無菌播種及びその他都内の自生種の繁殖、栽培
- ・絶滅危惧植物を含む野生種の都内自生地現地調査（24種）
- <教育・普及啓発>
- ・近隣小学校等と連携しての授業
- ・野生ランシンポジウムの開催（7月）
- ・講座開催（年8回開催）
- ・情報館内エントランス展示（帰化植物・シダ植物・冬芽）並びに無菌培養コーナーの開設
- ・都立公園、都内ビジターセンター、植物園等出張展示
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・都内本土部、島しょ部の活動家との情報連絡会
- ・各種野生種現地調査での協力、連携

北里大学薬用植物園

- <調査・研究>
- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシの遺伝資源としての保全と栽培
- ・（一財）日本民族工芸技術保存協会との受託研究「高品質な紫根を得るための栽培法確立に向けた化学的、物理的改善」を実施中（第一期 2022～2024年度）
- <教育・普及啓発>
- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示



絶滅危惧生物展(筑波実験植物園)



上：自生地調査、下：無菌培養(多様性センター)

- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・関東拠点園の取組みへの参加



北里大学薬用植物園

富山県中央植物園

<調査・研究>

- ・立山の高山植物群落の調査
- ・ミコシギクの自生地の生息域外保全（継続）
- ・富山県産チョウジソウの自生地の生息域外保全（継続）
- ・愛知県のキンセイランの自生地の生息域外保全（継続）
- ・琉球諸島のリュウキュウカンヒザクラの自生地調査
- ・環境省 生物多様性推進事業による暖温帯・亜熱帯産国内希少野生動植物種の自生地の生息域外保全（令和3年度からの継続、令和5年度継続申請予定）
- ・富山県中央植物園友の会植物誌部会による県内のフロラ調査

<教育・普及啓発>

- ・ラン科植物をメインとした企画展（7回）、さつき・盆栽展（2回）、サボテン・多肉植物展（2回）、おもと展、ツツジ・シャクナゲ展、クリスマスローズ展、雪割草展等の実施
- ・夏休み子ども企画「オオオニバスに乗ってみよう」の実施
- ・研究発表展による職員の研究成果の紹介
- ・マスコミなどへの情報や写真の提供

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・地元植物愛好家団体との共同調査および共催による企画展展示

白馬五竜高山植物園

<調査・研究>

- ・環境省委託業務として、「令和4年度国内希少野生動植物種ヒゲナガコメススキ等におけるモニタリング業務」を並行して行い、ヒゲナガコメススキ、センジョウスケにおいて現地の状況調査を行った

<教育・普及啓発>

- ・白馬五竜高山植物園 絶滅危惧種の保全成果報告会”と題した講演会、見学会を開催（計70名参加）



絶滅危惧種の保全成果報告会（白馬五竜高山植物園）

新潟県立植物園

<調査・研究>

- ・新潟市レッドリスト調査：市からの依頼に対応
- ・オキナグサ保全に関する調査・研究：環境省生息域外保全事業以降、保全に関する調査・研究を実施。
- ・佐潟植生調査：地元公共団体からの依頼で2008年から継続実施

<教育・普及啓発>

- ・オキナグサ保全活動：地元小学校および公共団体と保護増殖活動を実施（出張授業等6回）。シンポジウム開催
- ・佐潟ハス復活プロジェクト：佐潟下潟で絶滅したハスの復元を指導。地元小学校へ出張授業（8回）。シンポジウム開催
- ・十二瀧保全活動：地元小学校への保全授業を実施（1回）

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・魚沼市自然環境保全委員会：委員として地域の保全会議に参加
- ・佐潟周辺自然環境保全連絡協議会：委員として会議に参加

武田薬品工業(株)京都薬用植物園

<調査・研究>

・ベニバナヤマシャクヤク・ヤマシャクヤクの発芽適温に関する調査と耐陰性に関する調査

<教育・普及啓発>

・京都市と締結した「生物多様性保全に関する協定」に基づいて、京都市衛生環境研究所施設内に京都市産希少植物(キキョウ・オケラ)を使用した漢方処方に関する植栽展示を実施

・環境省における「自然共生サイト認定」に係る実証事業において「認定」相当の評価を得る

・小笠原諸島に自生する希少種保全に向けた「危険分散園」として環境省に認可を申請

・八重山の薬用植物についての勉強会「マラリアと薬用植物」を開催(沖縄県石垣市竹富町役場仮庁舎)

・オガサワラグワ里親計画への参画(森林総合研究所材木育種センターとの連携)

・絶滅危惧種 A類(CR)タカクマムラサキ種子島集団の生息域外保全事業への参画(環境省との連携)

・国際自然保護連合(IUCN)のレッドリストで「危機(EN)」と評価されているショクダイオオコンニャクの連続開花による見学会開催(2022/7/2~7/5)

<市民団体とのネットワーク構築>

・京都市北区で活動する「雲ヶ畑・足谷 人と自然の会」と協働し、園内における希少種の生息域外保全ならびに雲ヶ畑・足谷地域に自生する植物の園内での常設展示に向けた整備

・京都府立桂高等学校ならびに栽培農家との協働で、京都の伝統野菜数種についての系統保存を開始

<その他>

・フタバアオイ・カツラを上賀茂神社に奉納:葵祭に欠かせない装飾品「葵桂」の素材であるフタバアオイ・カツラを園内で増殖し、奉納する取組を実施

大阪府立花の文化園

<調査・研究>

・環境省生物多様性保全推進支援事業:ジュロウカンアオイ、ホロテンナンショウの自生地調査を行った

<教育・普及啓発>

・環境省の生物多様性保全推進支援事業:園内ロビーに事業を紹介する掲示を行った

咲くやこの花館

<教育・普及啓発>

・熱帯雨林保全のためのワークショップ(ボルネオ保全トラストジャパンと協働)(7/24、7/30、31)

・ハワイの自然を伝えるガイドツアー(毎月1回)

・フラワーツアー(1日2回)

・熱帯フルーツ展(4/29~5/8)

・虫を食べる植物展、講演、ワークショップなど(7/9~9/25)

・フニーバオバブの開花ライブ配信(マダガスカルの自然の紹介を含む)(8/21)

・コケ展開催、トークショー(1/7~1/22)

・カカオとコーヒー展、ワークショップなど(2/4~2/26)

<市民団体とのネットワーク構築>

・ボルネオ保全トラストジャパン、Hawaiian Days Projectなどの市民団体、研究機関、博物館などととも展示、イベントを実施



上:ショクダイオオコンニャク、下:京都市衛生環境研究所の展示(武田・京都薬用植物園)

大阪公立大学附属植物園

< 調査・研究 >

- ・環境省 RDB および近畿 RDB 絶滅危惧種を中心とした絶滅危惧種の調査
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動
- ・アラゲタデおよびダイトウサクラタデ種子繁殖に関する研究
- ・ヒメイノモトソウの孢子培養
- ・イヌヤチスギランの栽培
- ・カワゴケソウ科の栽培
- ・和泉葛城山のブナ林（天然記念物）

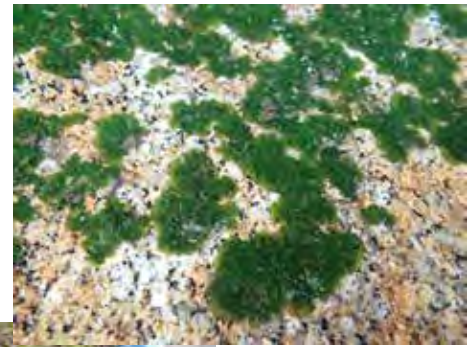
保護増殖事業の種子育苗

< 教育・普及啓発 >

- ・交野市との包括連携協定にもとづく事業実施（環境フェスタにおける絶滅危惧植物のパネル展示）
- ・各種観察会の実施
- ・博物館実習の開講

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・近畿植物同好会と協働で調査を実施



上: 絶滅危惧種ヤクシマカワゴロモ、下: イヌヤチスギラン栽培(大阪公大植物園)

神戸市立森林植物園

< 調査・研究 >

- ・アジサイの収集・保存・展示の実施
- ・六甲山系のヤマアジサイの地域個体の分布および形質的な多様性を把握するとともに、希少な変異個体の収集・保存を目的に、自生地調査を実施

< 教育・普及啓発 >

- ・こうべ六甲山私有林研究会と連携し、現地見学会（年1回）等情報発信を実施した

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・調査の実施に際して、有識者（兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科）、公設植物園（神戸市立森林植物園）、森林所有者（神戸市下唐櫃林産農業協同組合）と協力して実施している



神戸市立森林植物園

六甲高山植物園

< 教育・普及啓発 >

- ・特別企画「しょくぶつとむし」
- ・兵庫県立フラワーセンター土居寛文氏による「食虫植物寄せ植え講座」



左: 「夜のむし観察会」
右: サラセニア展示
(六甲高山植物園)



姫路市立手柄山温室植物園

< 調査・研究 >

- ・丘陵地の谷部湿地やため池環境の調査を重点的に行った。とくにサギソウの生育状況を調査した
- ・姫路市にある家島諸島の男鹿島の湿地を継続調査した

< 教育・普及啓発 >

- ・身近な絶滅危惧種の企画展示実施し、同時に会場にてミニ講習会を行った
- ・学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義を行った

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の会員が県下各地で植物調査を行っており、確認した絶滅危惧種の種子などを寄贈していただいている

広島市植物公園

< 調査・研究 >

- ・トウゴクサバノオなど、広島県内の絶滅危惧植物の生育状況調査を実施した
- ・環境省連携事業(植物園協会)の一環として、ネコヤマヒゴタイ(広島大学と共同)・ウスバアザミ、ホソバママコナの生育状況調査を実施した。ネコヤマヒゴタイについては、その成果の一部を「広島大学総合博物館研究報告第14号」および「第70回日本生態学会大会(仙台)」等において報告した

< 教育・普及啓発 >

- ・ラン関係では、年7回の展示会と9回の講習会・実演会を開催した(エビネ展4月23日~4月26日、春の洋ラン展4月29日~5月5日、セッコク・長生蘭展5月7日~5月12日、ウチョウラン展6月11日~6月16日、秋の洋ラン展10月29日~11月6日、寒蘭展11月9日~11月14日、春の特別ラン展2月18日~2月26日)
- ・植物多様性関係では、生物多様性がテーマの講話(うらら池よもやま話)を2回実施した
- ・園内の野生生物の観察会(植物公園生きもの探訪)をのべ7回実施したほか、福富中学校において出前講座(ミコシギクの保全)を実施した

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・広島県内4か所のヤチシャジンの既知の自生地のうち、1か所を地元団体(世羅町・世羅の自然を守る会)と共同で保全活動を行った
- ・広島県内の植物標本庫(広島大学・広島県緑化センター)と標本の収蔵状況やデータベース化の進捗状況などについて情報を交換した



エビネ実演会(広島市植物公園)

高知県立牧野植物園

< 調査・研究 >

- ・キンセイラン, サルメンエビネ, クマガイソウの調査
- ・野生植物分布調査(6市町村で調査)
- ・キリシマイワヘゴ保全増殖事業(環境省生物多様性保全推進支援事業)

< 教育・普及啓発 >

- ・野生植物分布調査(調査方法・樹木・水田の植物などについての野外研修会・分類学セミナーなど)

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・土佐植物研究会との協力関係



ハカタユリ(福岡市植物園)

福岡市植物園

< 調査・研究 >

- ・ハカタユリに関する調査の実施(開花数、生育状況等)

<教育・普及啓発>

- ・小学生向けの連続講座「植物ってこんなにおもしろい」(5回)開催など
- ・植物解説員による植物観察会を開催(月1回程度)など

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・R3年度にNPOとの共働事業で育成した里山ボランティアについて、R4年度も引き続き技術支援した



植物観察会(福岡市植物園)

熊本大学薬学部薬用植物園

<調査・研究>

- ・環境省「生物多様性保全推進支援事業」の交付金を得て、アマクサミツバツツジの生息域内保全を実施

<教育・普及啓発>

- ・全国都市緑化フェアが熊本市で開催されることに合わせ、「くまもとの花とみどりの危機」と題し、定例観察会内で講演を行った



ホザキカシグサ(熊本大学薬用植物園)

沖縄美ら島財団

<調査・研究>

[自主事業]

- ・西表島植物誌編纂事業(現地調査・標本調査)
- ・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究
- ・沖縄県内に生育するキバナシユスラン、コウシュンシユスラン、ナンバンカモメランの生息域外保全(環境省生物多様性推進支援事業)

- ・植物標本庫の充実化・活用
- ・希少植物栽培試験・系統保存

[環境省事業]

- ・維管束植物3種(サガリラン・ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ)の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当(受託)
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討(受託)
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集(協力)

<教育・普及啓発>

[展示会]

- ・サガリラン培養容器内開花/海洋博公園
- ・種子展/海洋博公園
- ・溪流帯希少植物展示(ヤンバルアオヤギバナ)

- ・希少植物保全展示（キバナシユスラン）／海洋博公園
- ・希少植物保全展示（エダウチャガラ）／海洋博公園
- ・ツバキ展／海洋博公園
- ・世界自然遺産展／沖縄県立博物館・美術館
- ・共催「ホソバフジボグサ展」／宮古島市総合博物館
- [講演会・講習会等]
- ・「沖縄諸島の希少植物の保全」／琉球大学寄付講座
- ・「絶滅危惧植物を利用した新品種開発プロジェクト」／琉球大学寄付講座
- ・「渡嘉敷島の植物」／環境省慶良間自然環境事務所主催講演会・植物観察会
- ・「サイエンスカフェ 世界自然遺産「西表島」の植物誌をつくる」／沖縄県立博物館・美術館
- ・「大人の植物学講座」／沖縄県立博物館・美術館
- ・「ガイド養成講座」／西表エコツーリズム協会
- ・「西表島の外来植物（仮称）」／琉球大学熱帯生物圏研究センター公開セミナー
- ・「植物観察会」／海洋博公園／沖縄県立博物館・美術館／名護青少年の家
- ・「タデ科植物観察会」／高知県牧野植物園
- < 市民団体とのネットワーク構築 >
- ・「海洋博公園で花と緑に親しもう 植物園ボランティア」／海洋博公園
- ・「美ら海花まつり」壁面花壇ボランティア／海洋博公園
- ・「琉球藍染体験（ワークショップ）」／海洋博公園
- < その他 >
- [環境省事業]
- ・国内希少動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・奄美・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）
- [沖縄県事業]
- ・沖縄県自然環境審議会（希少野生生物指定当）委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業 維管束分野指定種 検討委員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業（植物対策）作業部会 作業部会委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会 委員（協力）
- ・沖縄県立博物館・美術館収蔵品 WEB 図鑑発信事業 植物標本整理・発信ヒアリング（協力）

全国の植物多様性保全拠点園の取り組み

2023 年度 植物多様性保全拠点園事業・活動計画

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

< 調査・研究 >

- ・植物園の希少種リビングコレクションの質的課題の調査
- ・種の保存法指定種シリベシナズナの遺伝的多様性に配慮した保全に関する研究
- ・北海道指定希少野生植物エンピセンノウの自生地植え戻し試験
- ・オオウサギギク南限集団の保全を目的とした遺伝解析と生態調査

< 教育・普及啓発 >

- ・小学生対象の公開講座「葉っぱで作る植物図鑑」
- ・小学生向け公開講座「冬の植物園ウォッチング・ツアー」
- ・付属温室における北海道絶滅危惧植物の生株とパネルの展示

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・キリギシソウの生息域内・域外保全における「岨山自然保護協会」との協力

旭川市北邦野草園

< 調査・研究 >

- ・北海道上川管内に自生する植物の調査研究
- ・北海道・蛇紋岩地帯に於ける植物の調査研究
- ・環境省モニタリングサイト 1000 里地調査の継続
- ・北海道レッドリスト改訂に関わる調査、検討
- ・植物標本の作成・整理
- ・研究機関との共同調査

< 教育・普及啓発 >

- ・自作ハンドブック「旭川の植物」による観察会の開催
- ・自然教室（小、中、高校）
- ・調査研究報告書 No.12 の発行（3月末）

国立科学博物館筑波実験植物園

< 調査・研究 >

- ・絶滅危惧植物の種の実体の把握と分類学的な再検討、遺伝的構造の解析
- ・絶滅危惧植物の生活史と繁殖特性把握
- ・保全を目的とした無菌播種と自生地播種の方法、作業手順の改良
- ・野生絶滅種コシガヤホシクサの繁殖生態の解明
- ・多様性ホットスポット地域における絶滅危惧種を含む高山植物の化学成分の調査
- ・環境省生物多様性保全推進支援事業の実施

< 教育・普及啓発 >

- ・サクラソウ品種展、シダ展、きのこ展、ラン展、クレマチス園公開などを実施
- ・企画展の中で生物多様性保全に関するイベントを開催
- ・コシガヤホシクサの保全体験講座を開催
- ・ラン科植物拠点園で集会、種苗交換を実施
- ・外部の企画展、イベント、シンポジウムなどに協力

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・NPO 法人アクアキャンプ、地元関係者、地方自治体とコシガヤホシクサ保全に関する合同検討会議開催
- ・ランネットワーク、ラン懇話会、IUCN などの活動への支援

環境省新宿御苑

<教育・普及啓発>

- ・日本絶滅危惧種展（6月開催予定）
- ##### <市民団体とのネットワーク構築>
- ・自然友の会と連携した絶滅危惧植物の種子採集
 - ・安房生物愛好会と連携した絶滅危惧植物の種子採集

神代植物公園

<調査・研究>

- ・野生のラン科植物の無菌播種及びその他都内の自生種の繁殖、栽培
- ・絶滅危惧植物を含む野生種の都内自生地現地調査（20種程度）

<教育・普及啓発>

- ・野生ランシンポジウムの開催6月（IUCNラン部会日本委員会、ラン懇話会との共催）
- ・近隣小学校等と連携しての授業（連続講座、4回/年）
- ・講座開催10回程度
- ・情報館内エントランス展示
- ・都立公園、都内ビジターセンター、植物園出張展示

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・都内本土部、島しょ部の活動家との情報連絡会（2月開催）
- ・各種野生種現地調査での協力、連携

北里大学薬用植物園

<調査・研究>

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物でもあるミシマサイコ、キキョウ、ムラサキ、ハマビシ、ショウドシマレンギョウの遺伝資源としての保全と栽培
- ・（一財）日本民族工芸技術保存協会との受託研究「高品質な紫根を得るための栽培法確立に向けた化学的、物理的改善」を継続（第一期2022～2024年度）

<教育・普及啓発>

- ・日本薬局方収載の絶滅危惧植物の植栽展示
- ・環境省や日本植物園協会からの関連ポスター掲示
- ・関東拠点園の取組みへの参加

富山県中央植物園

<調査・研究>

- ・立山の高山植物群落の調査
- ・環境省 生物多様性推進事業による暖温帯・亜熱帯産国内希少野生動植物種の自生地の生息域外保全（令和3・4年度からの継続、令和5年度継続申請予定）
- ・ミコシギクの自生地の生息域外保全（継続）
- ・富山県産チョウジソウの自生地の生息域外保全（継続）
- ・愛知県のキンセイランの自生地の生息域外保全（継続）
- ・琉球諸島のリュウキュウカンヒザクラの自生地調査
- ・富山県中央植物園友の会植物誌部会による県内のフロラ調査

<教育・普及啓発>

- ・ラン科植物をメインとした企画展（6回）、さつき・盆栽展（2回）、サボテン・多肉植物展（2回）、おもと展、ツツジ・シャクナゲ展、クリスマスローズ展、雪割草展等の実施
- ・開園30周年企画展・記念式典の開催
- ・夏休み子ども企画「オオオニバスに乗ってみよう」の実施
- ・研究発表展による職員の研究成果の紹介
- ・マスコミなどへの情報や写真の提供

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・地元の植物愛好家団体との共同研究

新潟県立植物園

< 調査・研究 >

- ・新潟市レッドリスト調査：市からの依頼に対応
- ・オキナグサ保全に関する調査・研究：環境省生息域外保全事業以降、保全に関する調査・研究を実施
- ・佐潟植生調査：地元公共団体からの依頼で 2008 年から継続実施

< 教育・普及啓発 >

- ・オキナグサ保全活動
- ・佐潟ハス復活プロジェクト
- ・十二潟保全活動

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・魚沼市自然環境保全委員会：委員として地域の保全会議に参加
- ・佐潟周辺自然環境保全連絡協議会：委員として会議に参加

白馬五竜高山植物園

< 調査・研究 >

- ・2017 年、2019 年、2021 年、保全事業にて採取した白馬岳等の高山植物の種子からの栽培

< 教育・普及啓発 >

- ・植物園内の展示施設において、植物園協会の保全事業の展示パネル作成予定

名古屋市東山植物園

< その他 >

- ・第 5 回中部植物多様性保全拠点園会議（10 月富山県中央植物園にて開催予定）

武田薬品工業(株)京都薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・ベニバナヤマシャクヤク・ヤマシャクヤクの発芽適温に関する調査と耐陰性に関する調査
- ・キブネダイオウの種子の長期貯蔵に関する発芽試験開始

< 教育・普及啓発 >

- ・京都市産希少種などを用いた市民と協働での花壇作りの開始
- ・京都大学芦生研究林に自生する希少種の生息域外保全と展示
- ・小笠原諸島に自生する希少種保全に向けた「危険分散園」としての取組を継続（増殖・普及啓発のための展示会開催）
- ・「オガサワラグワ里親計画」に係る個体増殖および普及啓発のための展示会開催（森林総合研究所材木育種センターとの連携）
- ・「絶滅危惧種 IA 類（CR）タカクマムラサキ種子島集団の生息域外保全事業」に係る個体増殖および普及啓発のための展示会開催（環境省との連携）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・京都市北区で活動する「雲ヶ畑・足谷 人と自然の会」と協働し、園内における希少種の生息域外保全ならびに雲ヶ畑・足谷地域に自生する植物の園内での常設展示に向けた整備
- ・京都府立桂高等学校ならびに栽培農家との協働で、京都の伝統野菜数種についての系統保存を開始

咲くやこの花館

< 教育・普及啓発 >

- ・熱帯雨林保全のためのワークショップ（ボルネオ保全トラストジャパンと協働）（夏）
- ・ハワイの自然を伝えるガイドツアー（毎月 1 回）
- ・フラワーツアー（1 日 2 回）
- ・熱帯フルーツ展（春）

- ・虫を食べる植物展、講演、ワークショップなど(7月~9月)
- ・フニーバオバブの開花ライブ配信または夜間特別開館(マダガスカルの自然の紹介を含む)(8月中旬)
- ・きのこ展、講演会、トークショーなど
- ・コケ展開催、トークショーなど
- ・牧野富太郎に関する展示や植物紹介、講習会など
- <市民団体とのネットワーク構築>
- ・ボルネオ保全トラストジャパン、Hawaiian Days Project などの市民団体、研究機関、博物館などとともに展示、イベントを実施

大阪公立大学附属植物園

<調査・研究>

- ・環境省 RDB および近畿 RDB 絶滅危惧種を中心とした絶滅危惧種の調査
- ・共同利用・共同研究拠点「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」に関する活動
- ・アラゲタデおよびダイトウサクラタデ種子繁殖に関する研究
- ・ヒメイノモトソウの胞子培養
- ・イヌヤチスギランの栽培
- ・カワゴケソウ科の栽培
- ・和泉葛城山のブナ林(天然記念物)保護増殖事業の種子育苗

<教育・普及啓発>

- ・交野市との包括連携協定にもとづく事業の実施
- ・各種観察会の実施
- ・博物館実習の開講

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・市民団体と共同調査を実施

大阪市長居植物園

<教育・普及啓発>

- ・コロナの状況を鑑み、多様性パネル展の実施を計画

六甲高山植物園

<教育・普及啓発>

- ・3月18日~7月2日90周年特別企画「牧野の足あと~神戸で見つける博士と植物~」
- ・兵庫県立大学自然環境科学研究所と連携して兵庫県の高地性の希少種を種子や苗で預かる。圃場での栽培以外にも園内で展示して県民への啓蒙活動を行なう

神戸市立森林植物園

<調査・研究>

- ・アジサイの収集・保存・展示の実施。
- ・六甲山系のヤマアジサイの地域個体の分布および形質的な多様性を把握するとともに、希少な変異個体の収集・保存を目的に、自生地調査を実施予定

<教育・普及啓発>

- ・こうべ六甲山私有林研究会と連携し、現地見学会(年1回)等情報発信・普及啓発を予定

<市民団体とのネットワーク構築>

- ・調査の実施に際して、有識者(兵庫県立大学院緑環境マネジメント研究科、特定非営利活動法人六甲山の自然を学ぼう会)公設植物園(神戸市立森林植物園)、森林所有者(神戸市下唐櫃林産農業協同組合)と協力して実施する計画

姫路市立手柄山温室植物園

<調査・研究>

- ・ため池、湿地環境の調査を重点的に行いたい。島しょ部の湿地含む

< 教育・普及啓発 >

・2022 年度に引き続き、身近な絶滅危惧種の企画展示実施予定。同時に会場にてミニ講習会を行う。学校関係者あるいは生徒にサギソウの講義を行う

< 市民団体とのネットワーク構築 >

・2022 年度同様、兵庫県植物誌研究会や兵庫県生物学会の会員が県下各地で植物調査を行っており、確認した絶滅危惧種の種子などを寄贈していただいている

< その他 >

・兵庫県立人と自然の博物館ジーンバンクとの協働で系統保全について検討を継続する

広島市植物公園

< 調査・研究 >

・トウゴクサバノオ・ユウシュンランの生育状況調査

・令和 4 年度環境省連携事業（植物園協会）対象種のフォローアップ調査（ネコヤマヒゴタイ・ホソバママコナ・ウスバアザミ）

・ミコシギクの調査・研究

< 教育・普及啓発 >

・ラン科植物の展示会：7 回（講習会年 9 回）（継続事業）

・広島の絶滅危惧植物（生物多様性がテーマの園内観察会）：1 回（新規事業）

・植物公園生きもの探訪（園内の動植物の営みや生態系の解説など）：8 回（継続事業）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

・ヤチシャジンの保全活動への協力（継続事業）

・広島県内の標本庫相互の情報交換網の整備（継続事業）

・ミコシギクの保全（新規事業）

高知県立牧野植物園

< 調査・研究 >

・野生植物分布調査（7 市町村で調査）

・キリシマイワヘゴ保全増殖事業（環境省生物多様性保全推進支援事業）

・ヒゲナガトンボ（ダケトンボ）についての調査

・オオバナオオヤマサギソウについての調査

・トサミスミソウ（新種）についての調査

・ヒメノヤガラ調査協力（福島大）

・絶滅危惧種の調査（適宜）

< 教育・普及啓発 >

・野生植物分布調査（調査方法・樹木・水田の植物などについての野外研修会・分類学セミナーなど）

< 市民団体とのネットワーク構築 >

・土佐植物研究会との協力関係

福岡市植物園

< 調査・研究 >

・ハカタユリに関する調査の実施（開花数、生育状況等）

< 教育・普及啓発 >

・小学生向けの連続講座「植物ってこんなにおもしろい」（5 回）開催

・植物解説員による植物観察会を開催（月 1 回程度）など

< 市民団体とのネットワーク構築 >

・ハカタユリの里親制度の今後に向けた里親との意見交換

・里山ボランティアによる樹林地管理を通じた交流

熊本大学薬学部薬用植物園

< 調査・研究 >

- ・熊本県内に生育するホザキキカシグサを全生育地ごとに系統保存する予定
- ・植物地理学上重要な生育地となっているものについて、保全計画を立てる

沖縄美ら島財団

< 調査・研究 >

[自主事業]

- ・西表島植物誌編纂事業（現地調査・標本調査・編集作業）
- ・希少植物・有用植物の種子等の超低温保存技術の確立に関する調査研究
- ・沖縄県内に生育するキバナシュスラン、コウシュンシュスラン、ナンバンカモメランの生息域外保全（環境省生物多様性推進支援事業）

- ・植物標本庫の充実化・活用
- ・希少植物栽培試験・系統保存

[環境省事業]

- ・維管束植物3種（サガリラン・ホソバフジボグサ・リュウキュウヒメハギ）の生息域外保全及び野生復帰技術の検討・開発業務実務担当（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子保存に関する検討（受託）
- ・希少野生植物の生息域外保全検討実施委託業務・種子収集（協力）

< 教育・普及啓発 >

【展示会】

- ・種子展 / 海洋博公園
- ・希少植物保全展示 / 海洋博公園
- ・ツバキ展 / 海洋博公園

【講演会・講習会等】

- ・「沖縄諸島の希少植物の保全」 / 琉球大学・名桜大学寄付講座
- ・「絶滅危惧植物を利用した新品種開発プロジェクト」 / 琉球大学・名桜大学寄付講座
- ・「大人の植物学講座」 / 沖縄県立博物館・美術館
- ・「植物観察会」 / 海洋博公園
- ・「島野菜の植付・収穫体験」 / 海洋博公園

< 市民団体とのネットワーク構築 >

- ・「海洋博公園で花と緑に親しもう 植物園ボランティア」 / 海洋博公園
- ・「美ら海花まつり」壁面花壇ボランティア / 海洋博公園
- ・「琉球藍染体験（ワークショップ）」 / 海洋博公園

< その他 >

[環境省事業]

- ・国内希少動植物種指定種候補 現地調査・情報提供（協力）
- ・奄美・沖縄地域希少植物生育状況調査等業務 現地調査・情報提供（協力）

[沖縄県事業]

- ・沖縄県自然環境審議会（希少野生生物指定当）委員（協力）
- ・沖縄県希少野生生物保護推進事業 維管束分野指定種 検討委員（協力）
- ・沖縄県外来種対策事業（植物対策）作業部会 作業部会委員（協力）
- ・沖縄県版レッドデータブック改訂・編集委員会 委員（協力）

資料

植物個体管理データベース 概要説明書

植物情報システム委員会

植物個体管理データベース 概要説明書

【名称】

植物個体管理データベース

【概要】

植物個体管理データベース（略称：個体データベース）は、公益社団法人日本植物園協会の加盟園および関連施設で保有されている植物コレクションの個体情報（保存機関、由来履歴、遺伝情報など）を管理するために、環境省と日本植物園協会が連携して開発した Web データベースです。このデータベースは、絶滅危惧種の生息域外保全に活用することが大きな目的ですが、絶滅危惧種のみならず栽培植物などすべての植物を登録することが可能です。園内で保管している種子や胞子の情報も登録できます。加盟園に所属する方はどなたでもアカウントを申請して、無料で利用できます。

植物コレクションの情報管理は、コレクションを活用するための基盤となるものです。本データベースを、植物コレクションの個体情報の管理にご活用下さい。

【メリット】

絶滅危惧種に限らず、すべての植物コレクション（種子・胞子含む）の個体情報を登録・管理できます。

インターネット環境があれば無料で利用でき、オンラインで情報を共有できます。

Excel ファイルで出力でき、植物目録などを簡単に作成できます。

自園で保有する植物コレクションを検索できます。

絶滅危惧種の保有状況調査（5年ごとに実施）に活用できます。

【情報の取り扱い等】

個体に関するデータ（産地や移動履歴など）は一般公開されません。また、協会加盟園間で情報を共有するかどうかを選択できます。

公開データは、原則 CC BY 4.0（商業利用を含めた二次利用が可能）のライセンスで提供します。画像データは CC BY-NC 4.0（商業利用を除いて二次利用が可能）のライセンスを選択できます。

【利用申請】

「植物個体管理データベース利用申請書（入力用）」または「同（閲覧用）」を提出して下さい。

【お問い合わせ先】

公益社団法人日本植物園協会 植物情報システム委員会

database@syokubutsuen-kyokai.jp

資料

日本植物園協会植物情報システム運用規約

植物情報システム委員会

(目的)

第1条 本規約は、公益社団法人日本植物園協会(以下「協会」という。)が管理するデータベースの運用に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(名称)

第2条 協会が管理運営する植物特性データベース、植物個体管理データベース、種子管理データベース、ナショナルコレクション・データベースを総称して日本植物園協会植物情報システムとする(以下「植物情報システム」という。)

(定義)

第3条 この規約において、「管理者」とは協会の植物情報システム委員会(以下「委員会」という。)とし、植物情報システムに情報を入力するものを「入力者」、情報を入力者に提供する者を「提供者」とし、入力者および提供者は管理者が認めた者とする。また、植物情報システムを閲覧・利用する者を「利用者」とする。

(情報)

第4条 登録する情報は、提供者によって提供に関する承諾を所属機関の設置者等から受けているものとする。

(権利の帰属)

第5条 入力された情報の著作権は、画像データを除いて協会に帰属する。画像データに関する著作権は提供者または撮影者自身に帰属する。

(公開)

第6条 植物情報システムは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに従い、原則としてCC BY 4.0のライセンスで公開する。ただし、画像データは、画像データの入力者がCC BY 4.0またはCC BY-NC 4.0を選択し、選択された条件のもとに協会が公開する。

(利用)

第7条 CC BY-NC 4.0のライセンスで公開された画像データを除く全ての情報は、協会のウェブサイトを参考にしてクレジットを表示することで商業利用を含む利用が可能となる。ただし、CC BY-NC 4.0のライセンスで公開された画像データの商業利用に関しては、利用者と著作権者が直接交渉を行うこととし、協会は関与しない。

(禁止事項)

第8条 植物情報システムの利用に際し、利用者は次の各号に掲げる行為をしてはならない。

- (1)法律、政令または省令その他の法令に違反する目的・手段・方法により、情報を利用(他人の権利を侵害する目的・手段・方法での利用または公序良俗に反する利用を含む。)する行為
- (2)協会、提供者または第三者に損害を与える行為(損害を与える恐れのある行為を含む。)
- (3)コンピュータウイルス等有害なプログラムを使用または提供する行為

(損害賠償)

第9条 利用者の規約違反等により、協会または提供者に損害が発生した場合、協会または提供者は、利用者に対し損害賠償を請求することができる。

(免責事項)

第10条 (1)協会は、入力者または利用者が植物の所有者または第三者に与えた損害について、一切の責任を負わないものとする。また、植物情報システムのサービス提供の内容、遅延、中断または停止により提供者、利用者または第三者が被った損害について、協会は一切の責任を負わないものとする。

(2)協会は、予告なしに、植物情報システムの利用を停止若しくは中止し、または植物情報システムに掲載される情報などの全部若しくは一部を変更する場合がある。

(利用規約の変更)

第11条 (1)本規約の内容は、必要に応じて、事前の予告なしに変更されることがあるので、植物情報システムの利用に際しては、最新の利用規約の内容を確認すること。

(2)本規約の実施に関して必要な細則等は管理者が整備し、理事会に報告する。

(3)本規約を改廃する場合は、理事会の承認を得て行うものとする。ただし、軽微な変更修正はこの限りではない。

この規約は、令和5年3月17日から施行する。

資料

植物個体管理データベース利用申請書

植物情報システム委員会

植物個体管理データベース利用申請書（園管理者用）

公益社団法人日本植物園協会 植物情報システム委員会 御中

下記の通り、植物個体管理データベースの入力用ログイン ID の交付を申請いたします。

利用にあたっては、植物情報システム運用規約を遵守いたします。

自園のすべてのデータを入力・閲覧することができます。機密度高のセンシティブデータを除き、他園のデータも閲覧できます。

入力者ごとに申請して下さい。

申込日	年	月	日
申請者			
フリガナ			
氏名			
職名			
メールアドレス			
電話番号			
所属機関			
施設名			
メールアドレス			
電話番号			

ご記入頂いた個人情報は植物個体管理データベースのログイン ID の交付以外の用途には使用いたしません。
申請内容に変更が生じた場合は、速やかに届け出て下さい。

提出方法：申請書を添付したメールを下記の宛先にお送り下さい。

日本植物園協会植物情報システム委員会 database@syokubutsuen-kyokai.jp

（以下の欄は協会が記入します）

ログイン ID			
パスワード			
発行日	年	月	日
利用停止日	年	月	日

植物個体管理データベース利用申請書（園閲覧者用）

公益社団法人日本植物園協会 植物情報システム委員会 御中

下記の通り、植物個体管理データベースの入力用ログイン ID の交付を申請いたします。
利用にあたっては、植物情報システム運用規約を遵守いたします。

自園のすべてのデータを閲覧することができます。センシティブデータを除き、他園のデータも
閲覧できます。

機関ごとに申請して下さい。

申込日	年 月 日
申請機関	
施設名	
メールアドレス	
電話番号	

ご記入頂いた個人情報は植物個体管理データベースのログイン ID の交付以外の用途には使用いたしません。
申請内容に変更が生じた場合は、速やかに届け出て下さい。

提出方法：申請書を添付したメールを下記の宛先にお送り下さい。

日本植物園協会植物情報システム委員会 database@syokubutsuen-kyokai.jp

（以下の欄は協会が記入します）

ログイン ID	
パスワード	
発行日	年 月 日
利用停止日	年 月 日

資料

保有状況調査について

植物情報システム委員会

令和5年度は、5年に一度の「日本産絶滅危惧植物の保有状況調査」の実施年です。
現在、「植物個体管理データベース」を活用して、入力・アップロードできるシステムを構築中です。以前と同じくエクセルファイルによるデータ提供もできます。実施のフローについて簡単に説明します。

< 保有状況調査・データ収集方法のフロー >

各園に調査協力依頼〔事務局から送信〕6月

↓
各園の担当者を決定する〔事務局へ返信〕6月末を目安

↓
過去に提出されたデータの提供方法（データベース利用 / Excelデータ送付）の確認

植物個体管理データベース利用

調査開始前までに以下を協会が準備する

- ・利用マニュアル整備
- ・過去データのアップロード

調査開始前までに、データベースを使って過去データを提供する。

Excelデータ利用

希望する園の担当者宛に Excel の過去データを送付する。

- ・Excelデータはパスワードで保護
- ・個体管理データベースに担当者が登録できるか調査期間中に確認する。

↓
個体管理データベース、または Excel データによる過去データをもとに、絶滅危惧植物の保有状況を調査する

新規に保有調査を開始する場合の手順は調査協力依頼時に説明します

調査期間：令和5年9月～11月頃

↓
この間に、提出データの不備等のチェックをする
担当者に確認等をおこなう

最終の提出〆切 令和6年1月末

委員会によるデータ集計 令和6年4月

結果公表 令和6年5～6月 第59回大会

植物多様性保全事業年次報告 2023

発行年月日 2023年5月29日
編集・発行 公益社団法人日本植物園協会
植物多様性保全委員会
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11-201
TEL: 03-5685-1431 FAX: 03-5685-1453